

2021年3月期決算説明資料

2021年5月12日



株式会社ダイセル

目次

1. 2021年3月期 決算	P. 3
2. 2022年3月期 業績予想	P. 9
3. 株主還元	P. 19
4. 中期戦略Accelerate 2025の進捗	P. 20
5. 参考資料	P. 25

(注) 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、2022年3月期連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっており、対前年度増減には参考値を記載しています。

2021年3月期 業績

(単位：億円)

	20/3 実績	21/3 予想(※)	21/3 実績	対前年度		対予想	
				増減	増減率	増減	増減率
売上高	4,128	3,880	3,936	△ 193	△4.7%	+56	+1.4%
営業利益	296	280	317	+21	+7.0%	+37	+13.3%
経常利益	318	295	347	+29	+9.1%	+52	+17.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	50	180	197	+147	+296.0%	+17	+9.5%
為替レート USD/JPY	109	106	106				

2021年3月期の業績は、新型コロナウイルスによる様々な産業での需要低迷の影響を受け、減収となりましたが、徹底したコストダウンに取り組むとともに、自動車生産などの需要回復による販売機会を着実に捉えたことで増益となりました。なお、親会社株主に帰属する当期純利益増益の要因には、前年度にインフレタ事業などの構造改革に関する特別損失を計上していたこと、20年10月にポリプラスチックス完全子会社化（出資比率55%→100%）を実施した影響が含まれています。

2021年2月に発表した業績予想との比較においては、酢酸市況上昇に伴う価格是正や、製品需要回復に応じた拡販などにより、収益が想定を上回りました。

※ 2021年3月期業績予想は2021年2月3日に発表した業績予想です。

セグメント別 売上高・営業利益

(単位：億円)

売上高	20/3 実績	21/3 予想 (※)	21/3 実績	対前年度		対予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	151	155	162	+11	+7.4%	+7	+4.6%
スマート	253	250	247	△ 6	△2.6%	△ 3	△1.2%
セイフティ	748	670	672	△ 76	△10.1%	+2	+0.3%
マテリアル	1,094	1,005	1,042	△ 52	△4.7%	+37	+3.7%
エンジニアリングプラスチック	1,761	1,675	1,686	△ 76	△4.3%	+11	+0.6%
その他	121	125	127	+6	+4.9%	+2	+1.4%
合 計	4,128	3,880	3,936	△ 193	△4.7%	+56	+1.4%

営業利益	20/3 実績	21/3 予想 (※)	21/3 実績	対前年度		対予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	13	15	16	+2	+16.6%	+1	+4.1%
スマート	34	30	34	+1	+1.9%	+4	+13.7%
セイフティ	33	25	22	△ 11	△32.4%	△ 3	△10.8%
マテリアル	158	150	179	+21	+13.3%	+29	+19.5%
エンジニアリングプラスチック	209	195	212	+3	+1.3%	+17	+8.6%
その他	8	15	15	+7	+82.1%	△ 0	△1.2%
全社	△ 159	△ 150	△ 161	△ 2	△1.1%	△ 11	△7.1%
合 計	296	280	317	+21	+7.0%	+37	+13.3%

※ 2021年3月期業績予想は2021年2月3日に発表した業績予想です。

セグメント別 売上高・営業利益（対前年度 増減・要因分析）

（単位：億円）

売上高	20/3 実績	21/3 実績	増減	増減率	分析		
					数量差	単価差	単価差の内 為替影響
メディカル・ヘルスケア	151	162	+11	+7.4%	+23	△ 12	△ 3
スマート	253	247	△ 6	△2.6%	△ 8	+2	△ 1
セイフティ	748	672	△ 76	△10.1%	△ 64	△ 12	△ 12
マテリアル	1,094	1,042	△ 52	△4.7%	△ 7	△ 45	△ 16
エンジニアリングプラスチック	1,761	1,686	△ 76	△4.3%	△ 28	△ 48	△ 23
その他	121	127	+6	+4.9%	+6	-	-
合 計	4,128	3,936	△ 193	△4.7%	△ 78	△ 114	△ 55

営業利益	20/3 実績	21/3 実績	増減	増減率	分析			
					数量影響	価格影響	価格影響の内 為替影響	その他
メディカル・ヘルスケア	13	16	+2	+16.6%	+11	△ 9	△ 1	△ 0
スマート	34	34	+1	+1.9%	△ 5	+15	△ 1	△ 9
セイフティ	33	22	△ 11	△32.4%	△ 54	△ 11	△ 1	+54
マテリアル	158	179	+21	+13.3%	△ 13	+12	△ 9	+22
エンジニアリングプラスチック	209	212	+3	+1.3%	+2	+16	△ 6	△ 15
その他	8	15	+7	+82.1%	+7	-	-	-
全社	△ 159	△ 161	△ 2	△1.1%	-	-	-	△ 2
合 計	296	317	+21	+7.0%	△ 52	+23	△ 18	+50

第4四半期の事業の状況

新型コロナウイルスの影響による需要低迷からの回復基調が続きました。

メディカル・ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"> 化粧品原料の1,3BGは、引き続き国内需要が低調だが一部顧客向け販売が計画より増加。中国向けは好調。 キラル分離事業は、中国・欧州向けカラムの販売が計画より増加。
スマート	<ul style="list-style-type: none"> 液晶パネル市場の回復基調が続き、液晶フィルム用酢酸セルロースの販売は計画より増加。 IC/半導体事業は、半導体市場と液晶パネル市場の堅調な需要により、電子材料溶剤、レジスト材料の販売が計画より増加。
セイフティ	<ul style="list-style-type: none"> インフレータの販売数量は、自動車生産の回復が続き、ほぼ計画通り。
マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> 酢酸の販売は、需要の回復と市況の上昇により、計画より増加。 アセテート・トウの販売は、ほぼ計画通り推移。 カプロラクトン誘導体、エポキシ化合物などは、需要が堅調に推移しており、計画より販売が増加。
エンジニアリングプラスチック	<ul style="list-style-type: none"> 自動車向け需要の回復により、ポリアセタール樹脂などの販売が計画より増加。

連結貸借対照表

(単位：億円)

		2020年 3月末	2021年 3月末	増減
流動資産		2,980	3,125	+145
	現預金及び有価証券	814	915	+102
	受取手形及び売掛金	795	932	+137
	棚卸資産	1,174	1,087	△ 88
	その他	197	192	△ 6
固定資産		3,000	3,279	+279
	有形固定資産	2,043	2,197	+154
	無形固定資産	134	106	△ 28
	投資その他資産	822	975	+153
資産合計		5,980	6,404	+424
負債		2,054	3,954	+1,900
	有利子負債	928	2,709	+1,782
	その他	1,126	1,244	+118
純資産		3,926	2,450	△ 1,476
負債純資産 合計		5,980	6,404	+424

2021年3月期は、2020年10月にポリプラスチック完全子会社化に伴う株式の追加取得（1,575百万USD）を実施し、その資金調達のため、社債発行（1,000億円）および長期資金借入（670億円）を実施しました。これらの影響により、2021年3月末の純資産は減少し、負債は増加しました。

なお、政策保有株式については、2021年3月期に3銘柄を全部売却、2銘柄を一部売却しました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

		2020/3	2021/3	増減
	営業キャッシュ・フロー	572	579	+7
	投資キャッシュ・フロー	△ 459	△ 342	+116
フリーキャッシュフロー		113	236	+123
財務キャッシュ・フロー		△ 479	△ 171	+308
その他		△ 28	35	+63
現金及び現金同等物の増減額		△ 393	101	+494
現金及び現金同等物の当期末残高		807	907	+101

2021年3月期は、新型コロナウイルス感染症拡大など有事に備えた財務基盤確保のための資金調達を実施しました。その結果、前年度と比較して財務キャッシュフローにおける資金流出は減少し、期末の現預金残高は増加しました。

なお、ポリプラスチックス株式追加取得による支出とそれに伴う資金調達による収入は、財務キャッシュフロー内で相殺されています。

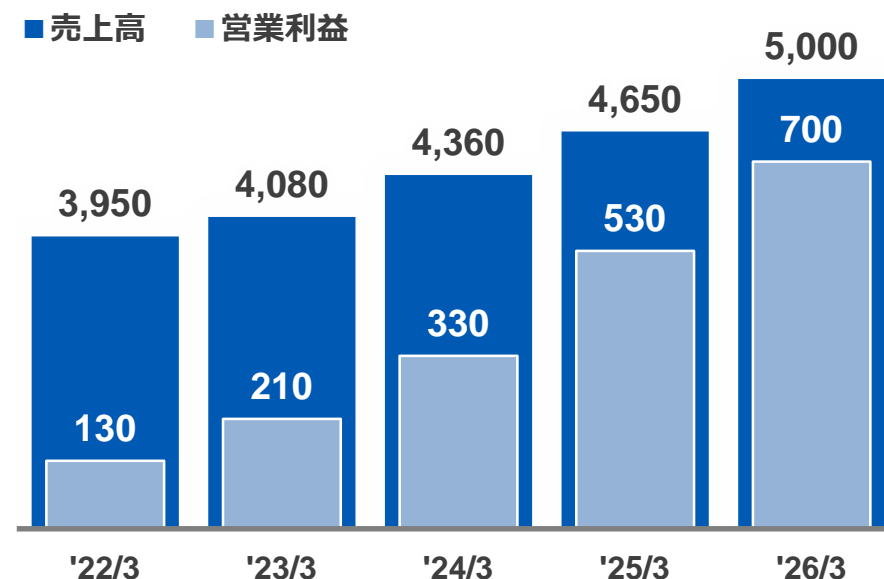
2022年3月期 業績予想

(単位：億円)

	21/3 実績	22/3 予想(※)	増減	増減率 (%)
売上高	3,936	4,200	+264	+6.7%
営業利益	317	270	△ 47	△14.9%
経常利益	347	290	△ 57	△16.4%
親会社株主に帰属 する当期純利益	197	220	+ 23	+11.9%
為替レート USD/JPY	106	105		

ROIC	4.1%	3.4%
EBITDA	586	597

<参考：中期戦略発表数値>



1.5%	2.5%	4.5%	7.0%	10.0%
600	680	820	1,000	1,160

上段：ROIC、下段：EBITDA

2022年3月期 業績予想のポイント

- ◇ 前年度後半からの需要の回復が年間で寄与
 - ・ 需要回復に対応し販売数量を伸ばす
 - ・ 需給、市況に対応した価格是正を進める
- ◇ 北米寒波、半導体供給不足は、自動車関連で若干の影響を織り込む
リスクではあるものの、全体業績への大きな影響はない見込み
- ◇ 20年10月のポリプラスチック完全子会社化での取得持分が年間で寄与
- ◇ 大型投資案件が稼働開始
 - ・ CO（酢酸原料）プラント 21年12月
 - ・ 1,3BG（化粧品原料）プラント 22年1月
 - ・ 2件で減価償却費が前年度比約50億円増加

中期戦略からの変化点

- ◇ 市場環境変化の織り込み
 - ・ 新型コロナウイルスによる需要低迷からの回復状況（中期戦略は20年10月頃の回復見込み）
 - ・ 半導体供給不足などの影響
- ◇ 大型投資の稼働時期変更
 - ・ CO（酢酸原料）プラント 21年6月 ⇒ 21年12月
 - ・ 1,3BG（化粧品原料）プラント 21年4月 ⇒ 22年1月
 - ・ 2件で減価償却費が約80億円減少
- ◇ 為替前提の変更
 - ・ 100円/US\$ ⇒ 105円/US\$
 - ・ 為替感応度は、営業利益で約6億円/円（円安が増益）

セグメント別 売上高・営業利益

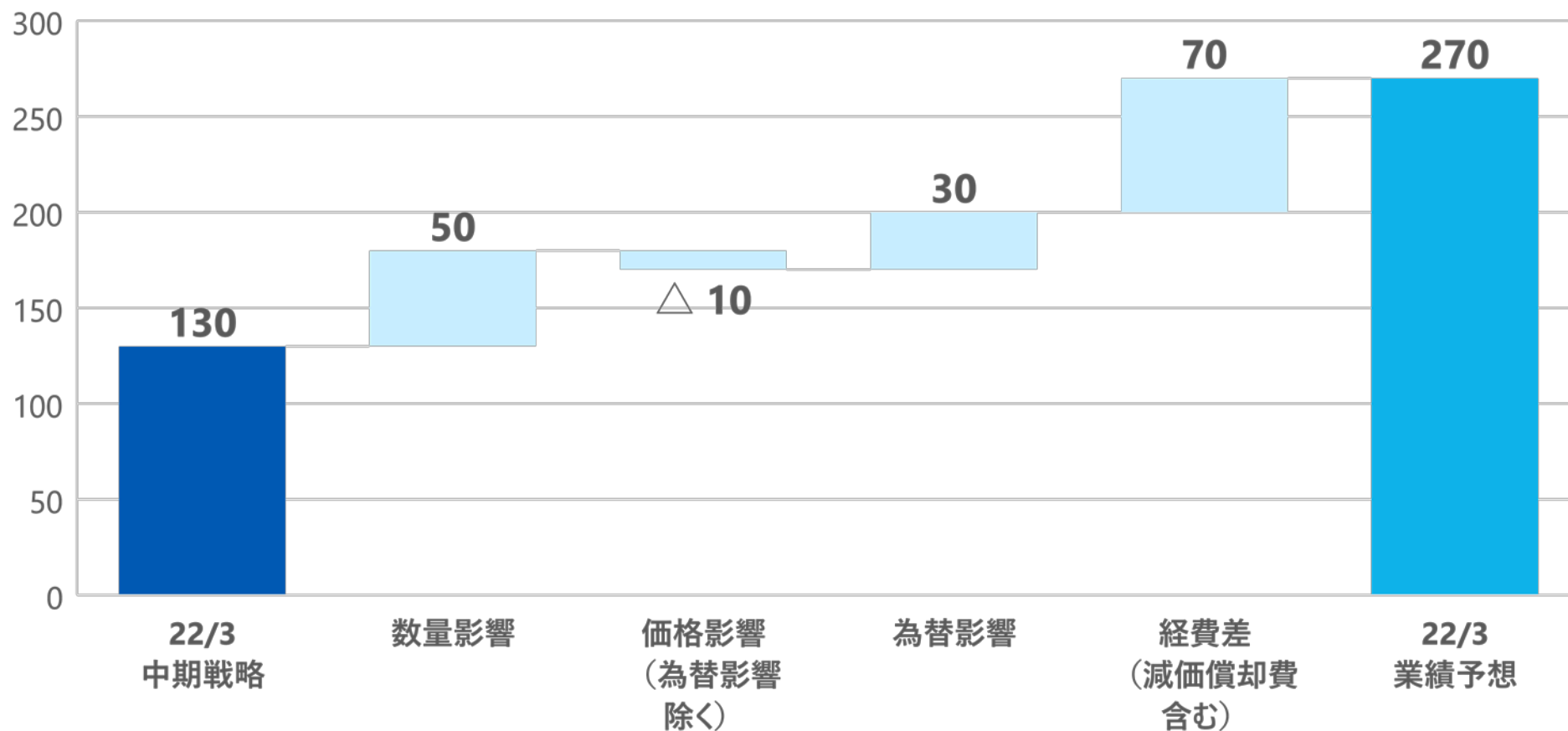
(単位：億円)

売上高	21/3 実績	22/3 中期戦略	22/3 予想(※)	対前年度		対中期戦略	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	162	170	180	+18	+11.0%	+10	+5.9%
スマート	247	260	260	+13	+5.3%	+0	+0.0%
セイフティ	672	680	720	+48	+7.1%	+40	+5.9%
マテリアル	1,042	1,000	1,010	△ 32	△3.1%	+10	+1.0%
エンジニアリングプラスチック	1,686	1,740	1,920	+234	+13.9%	+180	+10.3%
その他	127	100	110	△ 17	△13.2%	+10	+10.0%
合 計	3,936	3,950	4,200	+264	+6.7%	+250	+6.3%

営業利益	21/3 実績	22/3 中期戦略	22/3 予想(※)	対前年度		対中期戦略	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	16	△ 25	15	△ 1	△3.9%	+40	-
スマート	34	15	30	△ 4	△12.1%	+15	+100.0%
セイフティ	22	45	45	+23	+101.7%	+0	+0.0%
マテリアル	179	70	105	△ 74	△41.4%	+35	+50.0%
エンジニアリングプラスチック	212	180	225	+13	+6.3%	+45	+25.0%
その他	15	10	15	+0	+1.2%	+5	+50.0%
全社	△ 161	△ 165	△ 165	△ 4	△2.8%	+0	+0.0%
合 計	317	130	270	△ 47	△14.9%	+140	+107.7%

2022年3月期 業績予想 営業利益増減分析（対中期戦略）

（単位：億円）



2022年3月期 業績予想の前提（セグメント別）

	市場環境	事業の状況・取り組み
メディカル・ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"> ・コスメ市場は、新型コロナウイルスの影響により国内需要が大きく減少。緩やかな改善傾向も、急激な好転は見込めず。中国の需要は伸長。 ・中国市場では価格競争が激しくなる見通し。 ・健康食品市場は、健康意識の高まりにより堅調に推移。 ・製薬企業向け市場は堅調に推移し、大学や研究機関等の顧客稼働状況が世界的に復調する見通し。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1.3BGは22年1月から網干工場の新プラントでの商業運転を開始。 ・高付加価値品を顧客へ安定的に供給するとともに、伸長する中国市場向けへはコストダウンを徹底的に推進し、シェア拡大を図る。 ・酢酸セルロース真球微粒子BELLOCEAは、マイクロプラスチックビーズからの置き換え需要を取り込む。 ・フラボセル(エクオール)は増産により安定供給体制を確立し、国内の潜在需要を獲得するとともに、海外での販売も視野に入れる。 ・キラルカラム・充填剤および受託分離等のクロマト事業は堅調に推移する見込み ・インドでの分析サービス事業はペプチド等の新規サービスの拡大を目指し、アメリカのゲノミクス事業はアグリバイオ分野を中心に販売拡大を図る。

2022年3月期 業績予想の前提（セグメント別）

	市場環境	事業の状況・取り組み
スマート	<ul style="list-style-type: none"> 液晶パネル市場は、前年度比4%の成長を見込む。 他素材フィルムのシェア拡大。 半導体市場は、5Gの普及、スマートフォンやデータセンター向けなどの旺盛な需要に対し、デバイスメーカーの投資計画もあり好調を維持する見通し。 機能フィルムは、車載市場の需要が半導体の世界的な供給不足により一時的に落ち込むものの、第2四半期以降は持ち直すと予想。新型コロナウイルスの影響で教育現場など様々な市場でICT化が進む。 	<ul style="list-style-type: none"> 液晶フィルム向け酢酸セルロース(TAC)は、品質を向上するなど素材としての競争力を高めることで販売増を図る。 需要が拡大する中、電子材料溶剤、レジストはフル製造・フル販売を見込む。超高純度溶剤のラインナップやEUV等のレジスト用材料、新たなプロセス用材料の提供に注力するとともに、需要増に対応するための能力増強も検討。 機能フィルムは、車載ディスプレイ用途の他、ペン入力ディスプレイ用途、抗菌・抗ウイルス製品など新たな成長分野への展開を図る お客様との共創による「住宅用薄型全熱交換器ユニット」用透湿膜シートの販売を開始。

2022年3月期 業績予想の前提（セグメント別）

	市場環境	事業の状況・取り組み
セイフティ	<ul style="list-style-type: none"> 自動車生産台数は、前年度比10%増加の見通しも、半導体などの原材料不足や新型コロナウイルスの再拡大で2~3%程度の下振れリスクが出てきている。 中国ローカルメーカーは現地での調達により半導体不足の影響は小さい見込み。 インドでの新型コロナウイルス感染拡大が4月末から自動車生産に影響。 日本を除く人件費上昇率 5%~7%を想定。 米中間でのサプライチェーン分断リスク。 電気自動車の増加。 	<ul style="list-style-type: none"> インフレータの販売数量は、新規受注プログラムの獲得や日米での回復などにより、前年度比10%台後半の増加を見込む（半導体不足等による減少を第1四半期に約2%織り込む）。 中国向けは前年度から既に回復しており微増。 インドでの販売に影響が出るものの、事業全体に占める割合は軽微。23年12月のインド生産拠点立ち上げスケジュールへの影響はない。 競争力強化のための生産地統廃合、インフレータのカタログ化、新組成ガス発生剤開発などの中期戦略での諸課題は、計画通り進捗中。 設備の自動化、要員の減少により労働生産性の向上を図る。自動化率を前年度比+6%の60%とし、直接人生産性(個/人)を15%改善させる。 米中間の分断を想定した生産地統廃合後の生産レイアウトを決定済。 電流遮断器は、欧州での販売を開始。23年以降の市場拡大に向けてマーケティング活動を推進。

2022年3月期 業績予想の前提（セグメント別）

	市場環境	事業の状況・取り組み
マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> 酢酸、酢酸誘導体の需要は引き続き堅調に推移、市況も上期は前年度より高い水準で推移する見通し。 アセテート・トウの主要市場は、新型コロナウイルス影響などにより約6%需要が減少した前年度並みか微減の見込み。 世界的な環境意識の高まりから環境素材のニーズが高まる。 カプロラクトン誘導体やエポキシ化合物は、自動車用途、電子材料用途などで、20年度下期からの需要回復が続く。 	<ul style="list-style-type: none"> 酢酸原料のCOプラントの稼働は12月に延期。 市況上昇に伴う価格是正を進めるものの、定期修繕やCOプラントの切り替えに伴い、販売数量は減少する見通し。 アセテート・トウは、新規顧客開拓や、低ろ過性品種のラインアップを増やすことで加熱式用途向けの拡販を進める。販売数量、価格は前年度並みの見通し。フル稼働を維持する。 低コストパルプの使用拡大などによるコストダウンを進める。 酢酸セルロースは、バイオマス由来かつ生分解性を持つ環境素材であることを活かした用途開発にも取り組む。 カプロラクトン誘導体、エポキシ化合物は、販売数量を伸ばすとともに、価格是正も進める。 エポキシ化合物は、用途拡大や新たな生産拠点確立など中期戦略の取り組みを継続し、事業拡大を図る。

2022年3月期 業績予想の前提（セグメント別）

	市場環境	事業の状況・取り組み
エンジニアリング プラスチック	<ul style="list-style-type: none"> 自動車市場は昨年秋以降の回復が続く。自動車生産台数は、第1四半期に半導体供給不足などによる生産調整の影響が出るものの、その後挽回していく見込み。 スマートフォン市場は、2019年の水準に戻る見込み。5G対応機種への切り替え、基地局新設によりLCPの需要が伸長。 北米寒波の影響により、原料価格高騰や調達の制約が発生。 	<ul style="list-style-type: none"> 既にフル稼働のLCPを除き、販売数量は増加を見込む。需要、原燃料価格上昇に対応した価格是正を行う。 POM、LCPの増設計画を確定させ、将来の供給力を活かすアプリケーション開発を推進する。 欧州テクニカルソリューションセンター開設、CRMの強化によりマーケティング機能を高度化し、欧米での成長・グループプロダクトの顧客訴求力向上を実現する。 サプライチェーン変革、高付加価値用途開発、レジンコスト構造改善などにより、PPS事業の収益改善を図る。

大型投資案件の進捗のご報告

2022年3月期には、以下の大型投資案件の稼働を計画しています。
設備投資額は2件合わせて約600億円で、減価償却費として2022年3月期に約50億円の計上を見込んでいます。

酢酸原料（一酸化炭素）プラントの老朽化更新（2021年12月稼働）
1,3-BG製造設備新設（2022年1月稼働）

2021年2月に公表した中期戦略では、酢酸原料プラントは2021年6月稼働、1,3-BG製造設備は2021年4月稼働を前提に計画を策定し、2022年3月期の減価償却費は2件合わせて約130億円を織り込んでいました。
これに対し、コロナ禍の影響や試運転期間における設備不具合の確認等により、安全を最優先として稼働時期を見直しました。

なお、新設する1,3-BG製造設備は従来プロセスを技術革新したプラントです。大竹品と同等品質の検証だけでなく、付加価値を高めた「網干品質」製品の開発を試運転期間中に進めます。

株主還元

中期戦略：現行の一株当たり配当金額を下限に、総還元性向40%以上をターゲットに設定

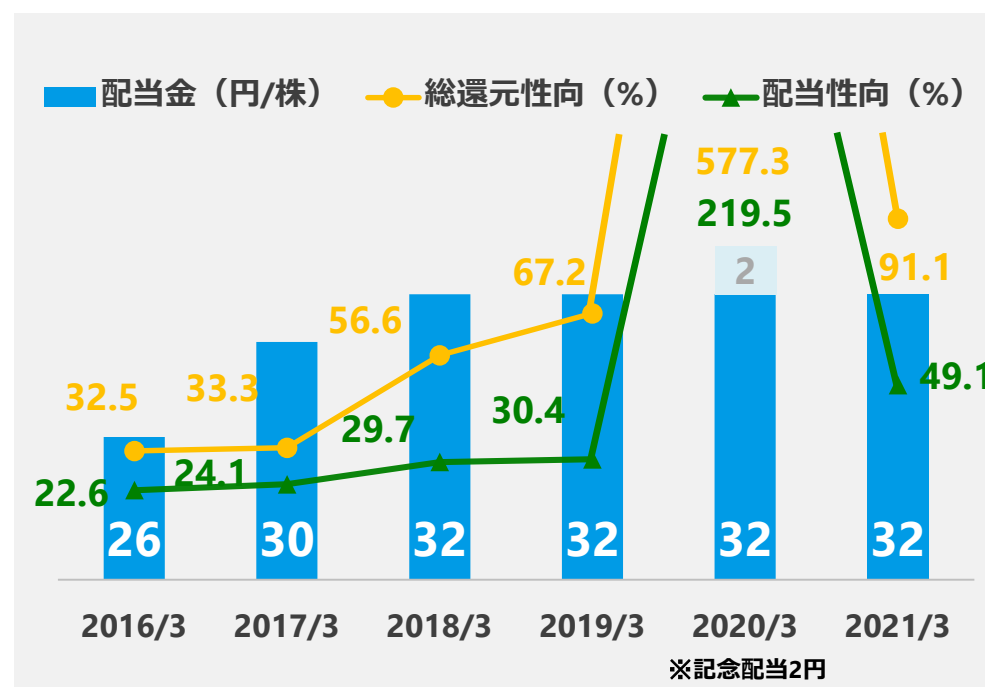
2021年3月期

- ・ 期末配当 16円/株（年間配当32円/株 前回発表の予想から変更なし）
- ・ 約968万株、83億円の自己株式を取得（取得期間：2020年4月～2020年7月）
 - ※2019年11月～2020年7月に約2,146万株、約200億円取得の当期分
- ・ 2020年9月に1,300万株の自己株式消却実施（消却前発行済株式総数に対する割合 4.11%）

2022年3月期

- ・ 年間配当予想 32円/株

(円/株)	2021年 3月期	2022年 3月期 予想
中間配当	16	16
期末配当	16	16
年間配当	32	32



ポリプラスチックとのシナジー

樹脂関連事業を統括する「パフォーマンスマテリアルズ本部」を設置

① ダイセルグループ樹脂事業の一体運営によるシナジー発揮

各社の機動性を損なうことなく、グループ樹脂事業全体のシナジーを追求します。

- ・ 合成樹脂事業のポートフォリオの見直し
- ・ 協業・M&Aによるプロダクトラインの拡充
- ・ 各社のマーケティング、研究、生産体制の横串機能の強化

具体的な取り組み事例

- ◇ 長繊維強化樹脂「プラストロン」をポリプラスチックへ事業移管し販売インフラを活用
- ◇ ダイセル広畑工場のコンパウンド能力をポリプラスチックの増産に活用
- ◇ プロダクトとして補完関係にあるPEEK（ダイセル・エボニック）とPEK（ポリプラスチックが市場調査を開始）を両社の顧客にポートフォリオとして提案し、採用機会を増加

② ダイセルグループ各社の得意領域を活かした新素材の開発加速

ダイセルのモノマー開発技術（計算科学）とポリプラスチックの重合技術の組み合わせなど、原料から一貫した分子設計を行うことでこれまでにない性能を持つエンブラの研究開発に着手。

③ 樹脂以外の事業との連携強化

ポリプラスチックとのシナジー

具体的なアクション

シナジー創出を加速するため、人事の一体運営を進めています。

2021年4月1日付で執行役員の変動を実施するとともに、両社の従業員の異動も進めています。

- ・ **シナジー創出を加速**
⇒ダイセル社長によるポリプラスチックの会長兼務
- ・ **ダイセルグループ合成樹脂事業の戦略立案と製・販・研の一体運営強化**
⇒新設するパフォーマンスマテリアルズ本部の本部長をポリプラスチック社長が兼務
(ダイセル専務執行役員兼ポリプラスチック代表取締役社長)
- ・ **中期戦略前半の主要な増産計画を占めるエンブラ事業への投資をグループ全体で迅速に実行**
⇒ポリプラスチック生産統括本部長をダイセルのエンジニアリングセンター担当に異動
(ポリプラスチック常務執行役員→ダイセル常務執行役員)
- ・ **マーケットイン（カスタマーイン）の営業スタイルをダイセルに浸透・強化**
⇒ポリプラスチック営業本部長をダイセルのマテリアルSBU長に異動
(ポリプラスチック常務執行役員→ダイセル常務執行役員)

「課題発掘型企业」実現への取り組み

ダイセルグループの総合力でお客様の課題解決を行う「カスタマーインによる新事業開発」を進め、2021年3月期はダイキン工業様との協業で成果を得ました。

従来の1事業部門での対応から、セルロース、有機合成、フィルム、評価解析といった当該研究に必要な部門が結集して総合力を発揮、短期間で新製品の開発を行いました。

また、酢酸セルロース（アセテート・トウ）の潜在的な機能をマーケットニーズで意識したことで開発のスピードアップに繋がり、新規用途の開拓も行えました。

これからもお客様と共に社会のニーズに対応していくことで、新たな価値を創造してまいります。



※詳細は参考資料「ダイキン工業との共同開発の成果」をご参照ください。

「新バイオマスプロダクトツリー」構想

当社は、「新バイオマスプロダクトツリー」構想の実現に向けて、以下の取り組みを進めております。

- ・温暖な気候で再生速度の速い森資源の有効活用
- ・溶けにくい木材のセルロース成分を常温のマイルドな条件で溶解する新しいケミカルプロセスを開発
- ・石油系製品群を補完する新たなバイオマス製品群の開発
- ・産産学官官連携によるオープンな研究開発



※詳細は参考資料「産学連携」をご参照ください。

Sustainable People を具現化する人事制度改革

自立自走型組織への転換と大胆な権限委譲 権限と責任に応じたやりがいを実感できる人事制度

- ◇ リーダー職（＝管理職）に役割等級制度（＝ロール型）を導入
 - 単一の職能等級制度から、
役割期待と報酬を紐づける役割等級制度を基盤とした複線型人事へ
 - ゼネラリスト志向から、本人の強み(専門性・マネジメント)に応じた
多様なキャリアアップへ

- ◇ 株式報酬制度を導入予定（リーダー職対象）
 - 全社の経営目標や自部門の掲げる経営指標にこだわりを持ち、経営者感覚を高める
 - 成果にふさわしい処遇を実現する
 - 業務遂行により個人の豊かさも追求する

参考資料

社外からの評価（2021年5月現在）

- 健康経営優良法人2021～ホワイト500～（2年連続）
- 女性活躍推進法に基づく認定制度「えるぼし」（三つ星認定）
- 日本政策投資銀行「DBJ健康経営格付」（ポリプラスチェックスが最高ランク評価）
- 日本総合研究所によるESG/SDGs評価 AAランク（三井住友銀行「ESG/SDGs評価シンジケーション」）
- 三菱UFJリサーチ&コンサルティングと日本格付研究所によるESG評価 Sランク（三菱UFJ銀行「ESG経営支援ローン」）



主要ESGインデックスへの組み入れ（2021年5月現在）

- MSCI ESG Leaders Indexes
- MSCI ジャパンESGセレクト・リーダーズ指数
- MSCI 日本株 女性活躍指数
- S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数



2020 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

2020 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)



ダイキン工業との共同開発の成果

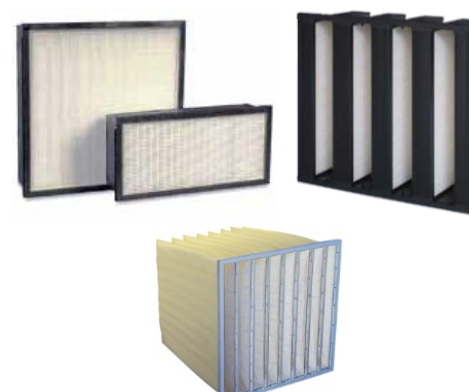
ダイキン様が持つ「空調要素技術」と、ダイセルが持つ「材料技術」の双方の強みを活かすことで、お客様にとって価値のある商品を創出することを目的に共同開発に取り組みました。

2021年3月期の成果として、当社のコーティング技術を活用した換気機器向けの「透湿膜全熱交換エレメント」および当社のアセテート・トウを使用した大型空調機向けの「低圧力損失エアフィルタろ材」を両社で開発しました。

今回の成果をもとに、今後も、両社で社会課題の解決を目的とし、世界初・世界No.1の商品創出に向けた協創を強化していきます。



透湿膜全熱交換エレメント



エアフィルタ

産学連携

■金沢大学

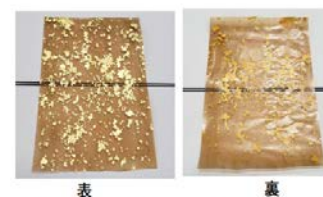
ファインセルロースの研究やセルロース常温溶解法による製造技術の開発をしております。従来法よりも均質なセルロースを得ることで分子設計の自由度を高め、生分解性のコントロールや各種機能の発現が可能になります。

また、他の企業、大学なども利用できるオープンな研究施設の建設を進めており、2022年に供用開始予定です。

■京都大学

2020年から本格的な共同研究をスタートさせ、木材の温和な条件での可溶化や触媒反応により、既存のパルプ化工程とは全く異なるセルロースの分離法や機能性材料をつくる手法を開発しています。

2021年には共同研究部門を開設するとともに、5つの研究科・研究所と包括的研究連携協定を締結して、強固な産学共同研究を進めます。



折り紙 鶴と亀

樹をフィルム化し、鶴と亀の折り紙を作成

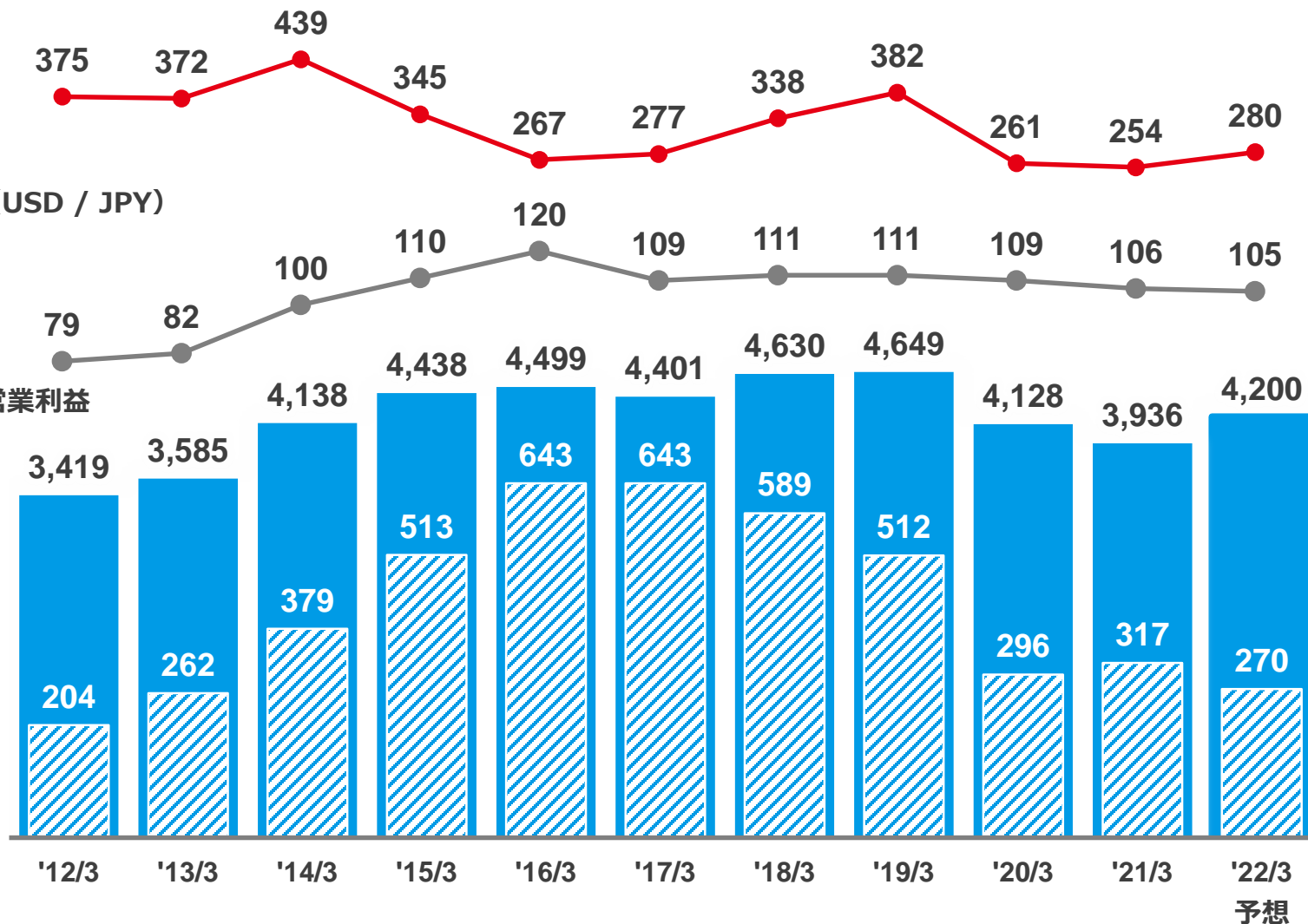
売上高・営業利益の推移・予想

(単位：億円)

● メタノールアジアスポット価格 (USD / ton)

● 為替レート (USD / JPY)

■ 売上高 / 営業利益



セグメント別 売上高・営業利益（四半期推移）

（単位：億円）

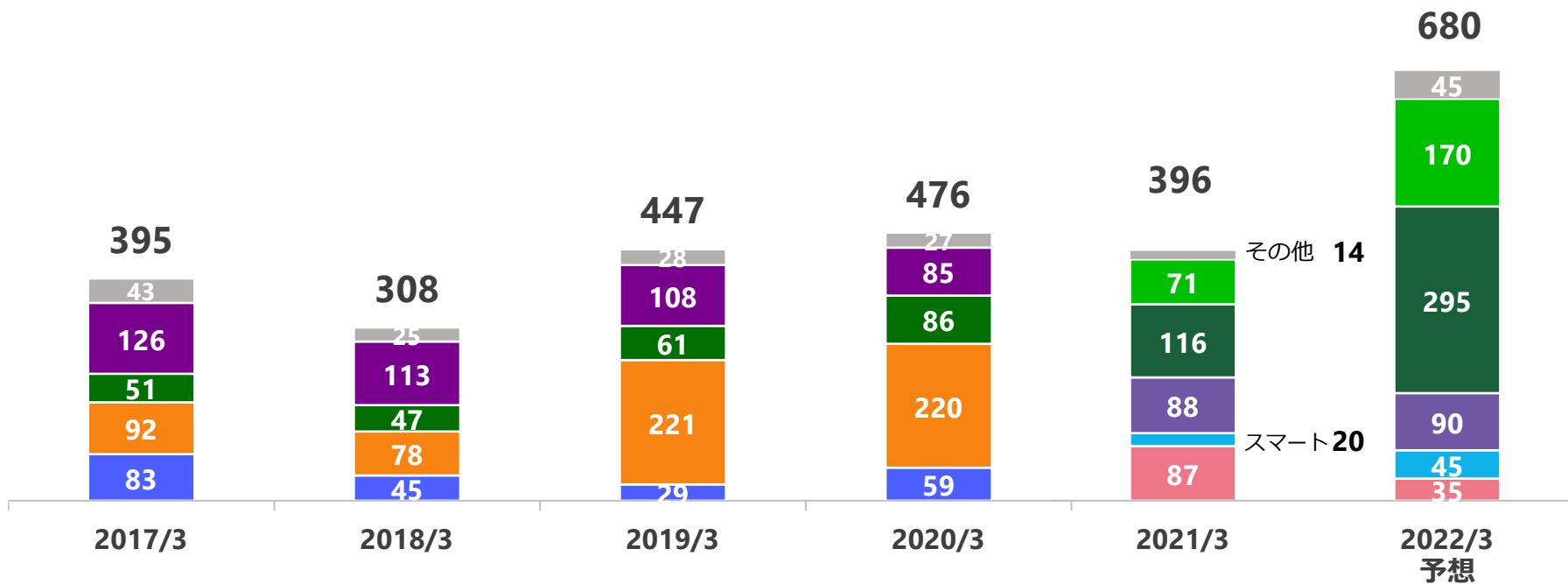
売上高	2020/3				2021/3			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
メディカル・ヘルスケア	40	39	38	35	39	39	42	42
スマート	63	65	62	62	51	52	73	71
セイフティ	204	195	181	168	107	165	195	205
マテリアル	269	281	264	280	256	237	256	293
エンジニアリングプラスチック	441	457	446	417	352	395	465	474
その他	22	30	30	39	24	37	30	36
合計	1,039	1,068	1,021	1,000	829	924	1,060	1,122

営業利益	2020/3				2021/3			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
メディカル・ヘルスケア	7	4	3	0	4	4	4	3
スマート	13	10	5	5	6	4	10	13
セイフティ	14	10	6	3	△ 23	6	22	17
マテリアル	45	34	30	49	39	36	34	71
エンジニアリングプラスチック	54	66	40	49	39	43	58	71
その他	0	3	1	4	4	5	4	2
全社	△ 41	△ 41	△ 37	△ 40	△ 38	△ 39	△ 36	△ 47
合計	92	87	48	70	31	60	96	130

設備投資額

(単位：億円)

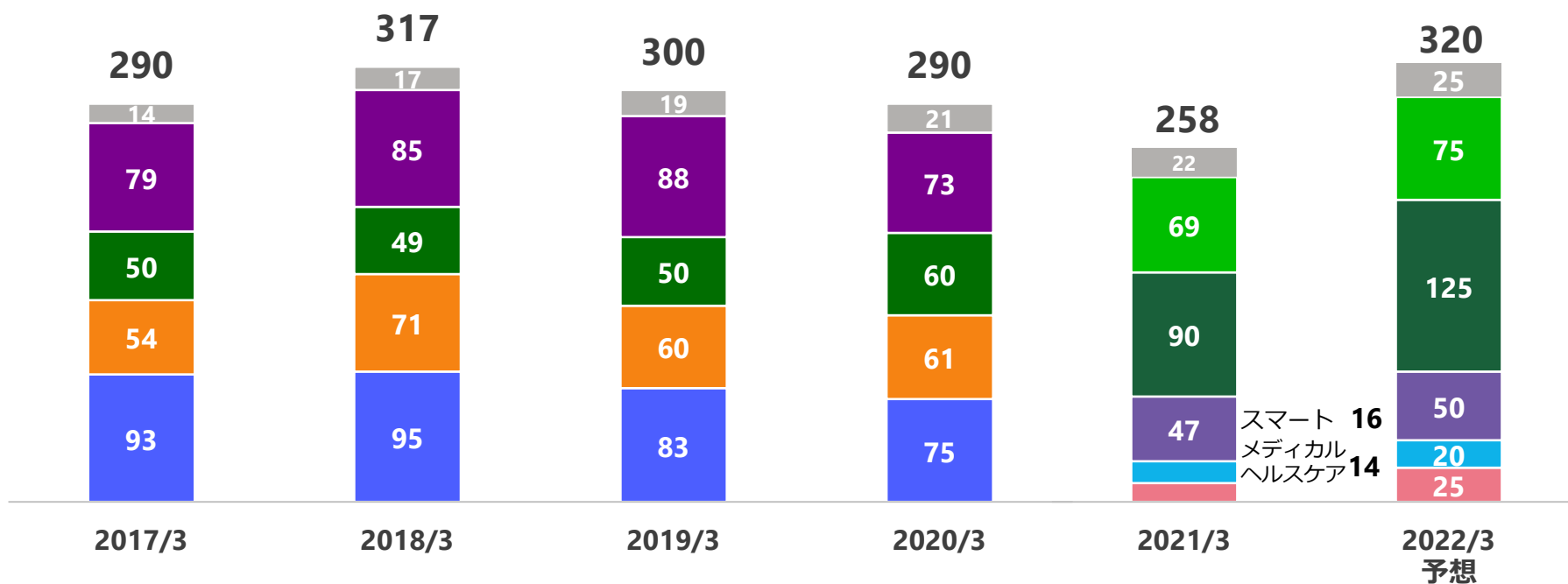
- セルロース
- 有機合成
- メディカル・ヘルスケア
- スマート
- 合成樹脂
- 火工品
- セイフティ
- マテリアル
- その他・全社
- エンジニアリングプラスチック
- その他・全社



減価償却費

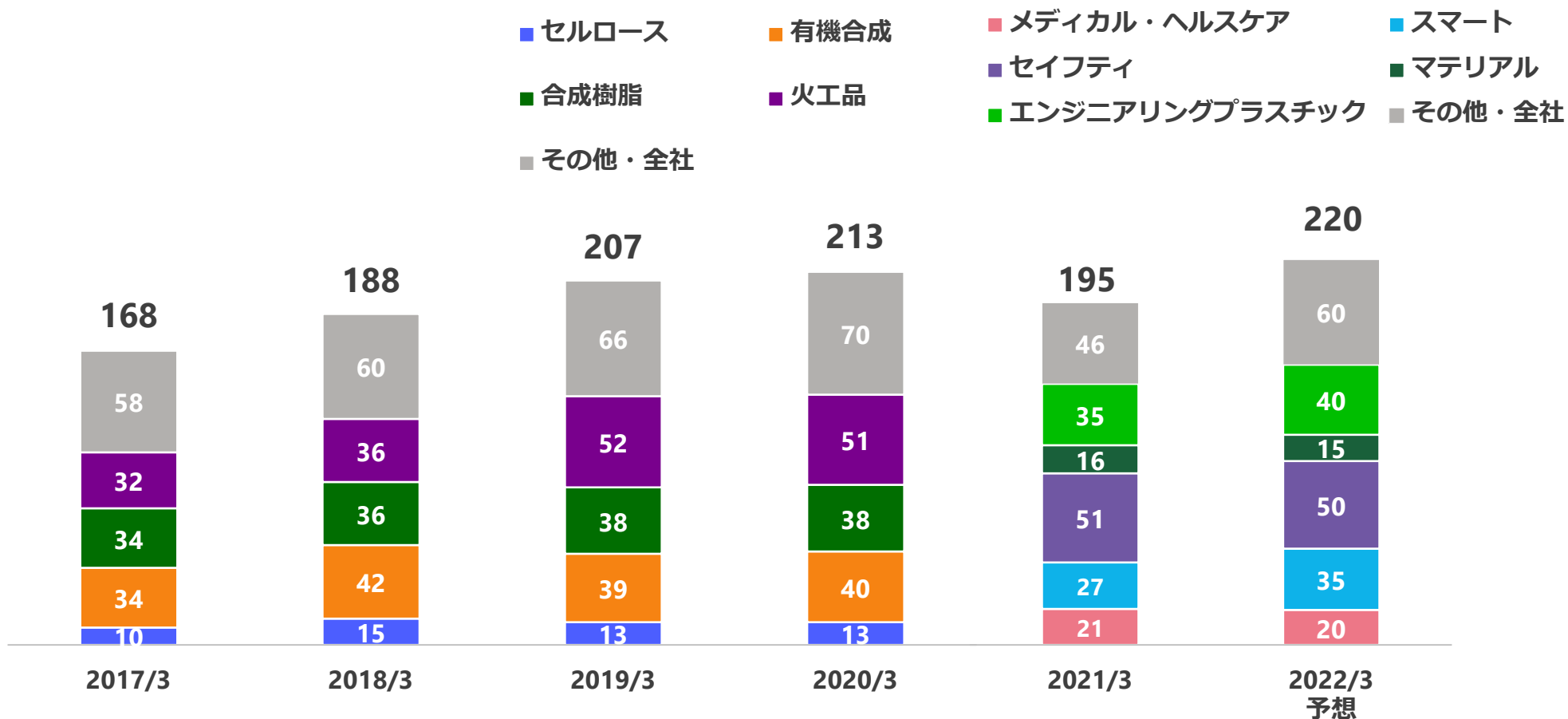
(単位：億円)

- セルロース
- 有機合成
- メディカル・ヘルスケア
- スマート
- 合成樹脂
- 火工品
- セイフティ
- マテリアル
- その他・全社
- エンジニアリングプラスチック
- その他・全社




研究開発費

(単位：億円)



2022年3月期 業績見通し

(単位：億円)

		2021/3 実績			2022/3 予想(※)			増減
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	
	メディカル・ヘルスケア	78	84	162	85	95	180	+18
	スマート	103	144	247	135	125	260	+13
	セイフティ	272	400	672	340	380	720	+48
	マテリアル	493	549	1,042	495	515	1,010	△ 32
	エンジニアリングプラスチック	747	939	1,686	960	960	1,920	+234
	その他	61	66	127	55	55	110	△ 17
売上高		1,753	2,182	3,936	2,070	2,130	4,200	+264
	メディカル・ヘルスケア	8	7	16	8	7	15	△ 1
	スマート	10	24	34	23	7	30	△ 4
	セイフティ	△ 17	39	22	15	30	45	+23
	マテリアル	75	104	179	70	35	105	△ 74
	エンジニアリングプラスチック	82	129	212	105	120	225	+13
	その他	9	5	15	7	8	15	+0
	全社	△ 77	△ 83	△ 161	△ 88	△ 77	△ 165	△ 4
営業利益		91	226	317	140	130	270	△ 47
経常利益		102	245	347	150	140	290	△ 57
親会社株主に帰属する当期純利益		33	164	197	110	110	220	+23


前提条件

		2020/3		2021/3		2022/3	
		上期実績	下期実績	上期実績	下期実績	上期計画	下期計画
為替レート (USD/JPY)		109	109	107	105	105	105
原料	メタノール アジアスポット価格 (USD/ton)	277	245	192	316	280	280
	原油 ドバイ (USD/bbl)	64	56	37	53	50	50
	国産ナフサ (円/kl)	42,800	42,700	27,500	34,500	32,000	32,000

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご使用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

本資料の著作権は株式会社ダイセルに帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。